

平成 29 年まち・ひと・しごと戦略茶話会発言要旨

日 時	: 平成 29 年 6 月 15 日 (木) 18 : 55 ~ 21 : 30
場 所	: 湖南省役所東庁舎 3 階大会議室
テーマ	: 平成 28 年度戦略事業の評価等
参加者	: 21 名 (各分野で活躍されている若手中心の方々と市職員)

1. あいさつ
2. 自己紹介
3. 茶話会の進め方について
4. 各政策パッケージの説明・質疑応答

～パッケージ 1～

10' 00"

説明者：～資料を用いてパッケージを説明～

17' 00"

参加者：今お聞きしている内容によると、農業を核とした産業推進というのをメインに考えておられます。今までの湖南省は、工業団地の誘致があつてそこからどんどん交流都市として栄えていった経緯があります。当時のこの近隣周辺の都市としては、湖南省では製造部門で一番でしたが、今では甲賀市に抜かれている状況です。農業に力をいれておられるのはわかるのですが、湖南省の住民のほとんどが製造業に携わっている職業であるかと思われます。湖南省の工業の特性をいかした産業の集積とおっしゃっていましたが、では魅力のある工業とはどういったものなのか。7つの政策パッケージのうち②工業の振興とあつて（1）魅力のある工業の推進や（2）新規産業の誘致と産学官連携とありますが、具体性がない表現になっています。魅力のある工業とはどのようなものをお考えなのでしょうか。これからの時代を考えた時に、今後 5 年もしくは 10 年先まったく別の世界があると思っただいていいと思います。2040 年以降は人工知能の方が人間知能を抜くとまで言われている中で、モノとインターネットがつながっていく社会になります。自動運転化が急速なピッチで広がると思います。そうなったときに、必要である産業と必要でない産業が大きくふるいにかげられることになります。製造業をしている会社の中には、日本の中でする必要がないときがくると思われますが、そういったことを総合的にみて、魅力のある工業とはどういったものをお考えのでしょうか。

事務局：昨年度は農業を軸とした展開を行ってきました。ここぴあにつきましては、企業

さんのご協力をいただき、農業だけではなく商業、工業、湖南省の産業を発信していく施設にしていこうということで、企業さんの製品関係の部材であったり材料を使って建設させていただいた経過もございます。また、あわせまして工業の振興については、本市は 2 次産業が非常に強くて、特に鉄鋼業、輸送業、機械器具の製造業、また化学工業などの売上高とか強い付加価値とともに、本市は高く数字が出ております。そういったことで、本市の産業構造の強みの部分がございます。こういった湖南省の寄与の特性を踏まえて、今後どうしていくかといった課題もございます。そういった中で、今取り組んでいます総合戦略に位置づけられた内陸型国際総合物流ターミナル構想というものもございます。ハード整備につきましても、長期的な視点もふまえた中で、現在、物流のコストの削減などをふまえて、経済の活性化の検討を行っております。また、企業誘致にむけた計画が今まで位置づけがされていませんでしたが、昨年度から企業誘致促進法にもとづいて湖南省の基本計画を策定させていただきました。そういった中で産業団地の取組も進めているところでもございます。こういったことで、総合的に進めていきたいと考えているところでございます。

参加者：今聞かせていただいた中で、私が聞かせていただいていることはもっとシンプルなことで、魅力のある工業とはどういったものを考えておられるのか。なぜそういったことをお聞きするかというと、今後そういったものを進めていく中で、未来を見据えて何を必要としているのかを考えていないとプランが具体化されないですよ。特性をいかして行政的に進めていただいていることも理解はできますが、例えば、モノとインターネットがつながる時代がきますよ。今でもすでにきています。モノも単独のものでは重要性をもたないという時代にきています。それでは、モノとインターネットがつながるときにどうしていったらいいのか。モノを作っている企業はどちらかというと IT 関連のことについては弱いです。今からモノとインターネットをつなげることを自社内で開発してやるのか。今までというのは、企業体質は閉鎖的なものであり、自分たちが持っている特別な技術を守っていこうとしていました。出来るだけ情報を開示して行って、自分たちが持っていないものは自分たちが開発するのではなく、外から取り入れるオープンイノベーションという考え方が主となってきている中で、どういった企業が強みを出せるのか、行政にも考えてもらいたいし、うまくビジネスマッチングを考えていただいくっつけるための会を開いてくれるとかしてもらわないと進んでいかないと思います。どういった企業を誘致していったらいいか、とか具体的な案も出てこないと思います。企業を誘致することは、非常に難しいことで土地、お金が必要になりますし大変なことだと思うんですけど、全然農業軽視をしているわけではなくて、農業というのはこれからすごくビジネスチャンスがある分野だと思うので、こちらはこちらで進めていただかないとは思うんですけど、生業

としている工業の部分にも着手してもらわないと、湖南省の衰退というのは早まるのではないかと思いますので、もう少し具体性をもった案で進めていただければと思います。

事務局：現在、取り組んでいる事業はそれぞれが魅力がある工業の推進につながるものだと思います。魅力ある工業を特化して言うことはできませんが、新たなものづくりの産業も出てきています。また、企業さんが進出していただける場所が不足しているということもございますので、産業団地の整備に向けての研究についても併せて行っているところでございます。

参加者：ここぴあの横に地産地消型レストランならびに農業体験施設ができると思うが、金額が大きい。資料の執行額というのはこれからの予算なのでしょうか。

事務局：これは、執行済み額です。内容はここぴあに関する建設費用がメインです。これから整備予定の西側部分につきましては、用地取得費用であったり、設計費用や調査費用です。

参加者：マーケティングの調査をするということだが、その調査いかんによってはその施設そのものであったりとか、その場所のありなしとかも検討されることになるのですか。

事務局：マーケティング調査は、ここぴあで販売する魅力のある特産品である商品のマーケティングです。

参加者：レストランにはそこそこの費用がかかり、それを回収しないといけないのでしょうかと運用できないといけないと思うので、その効果を調査するためと説明されたと思ったんですけど。その場所ですということとは、決まっているということですね。

事務局：そうですね。地産地消のレストランをどのように運営するかを今後具体的に詰めていくかということが必要になってきます。

参加者：国際物流拠点というのは進んでいるのですか。

事務局：研究をしている段階でございます。28年度につきましては、事業スキームの検討ということで、なかなか市単独でやるというのは非常に難しい部分がございます。これにつきましては、スキーム検討を昨年度させていただきました。事業の採算性の検討や実現性についての検討業務を進めてきたということでございます。

参加者：以前から話が出ていた栗東湖南インター周辺のところを指しているのですか。

事務局：場所については確定をしておりません。候補地の一つという位置づけでございます。

参加者：企業立地、企業誘致、農業等々も含めて湖南省全体の土地の活用といったところを担われていることかと思うのですが、農業が大切だということとはよくわかったのですが、例えば石部地区は圃場整備が進んでいない。地権者とか複雑なところもあるのでしょうけど。でもって後継者もいない、担い手もいなくなってくる。

住宅の土地がないと言われている。企業も土地を探している中で、全体で絵をかいたときにはもっとうまくいくのではないかと思いますので、またそういったところをよろしくお願いします。

参加者：農業の重要性を言っていたのですが、これだけ農業に、ほ場整備とか淡々とされていた国や県の事業以外に、湖南省の独自の農業に関する事業をこれほど大きくされたのは、私の記憶では初めてではないかなと思うくらい、農業がおいておかれた工業のまちであると思っていました。これだけ農業に力を入れられた近年の取組みの成果がやっと出てきて、農業と同じくらい工業にも力を入れていると思っていました。でも今回は農業だけだったのですごいバランスだと思って。農業は今まで住宅で住まれていた人たちが、リタイヤされた人の受け口としての今後の農業もありえますが、若い方が一から農業人として企業人と同じように一歩踏み出すことは少ないと思います。ただ、その施策に時間をかけられてというバランスが悪くなると思うのですが、ぜひ企業誘致も一生懸命してもらって道路なども整備してもらえれば、住みやすいまちになると思います。買ってもらえる、食べてもらえるという意味で農業の優位性もあげられると思います。もちろん農業という核を作っていて、いい意味でスタートしていただいたので、企業誘致の大事なところである人が増えて人を育てて、地元で採用してもらおうという流れをつくってもらって、農業もあわせてしていただければというパッケージになっているのではないかと考えています。

参加者：付加価値の高い農産品は何かというのが見だせていないというのが現状だと思います。何かをするのであれば、足並みをそろえさせることができるのは行政だと思います。農家が点在している中、これで1番とるよというのがあって、その農業者への働きかけをしていくことで農業の振興につながると思います。これからの時代を見据えたときに、先ほど言われていたリタイヤした人たちと観光の事業と結び付けられるとは思いますが、本当に農業で売り出すということになれば、日本のシェアよりもアジアのシェアを見据えるべきだと思います。私たち自身が素晴らしいと思える農作物に気付いていないと思うのですね。日本の作物は世界に通用するレベルだと思います。そのあたりの販路開拓する過程は一般人にはできないという部分が、どんどん衰退していく要因となると思います。農業やっているおじさん、おじさんばかりではなく若い方も農業をされているかもしれないですが、販路開拓的な部分を含めて行政のサポートがあれば農業は非常におもしろいものになるのかなと思います。ただ、ここびあで農産物を売り出せます、というだけの情報発信だけでは大きな魅力にはならないのではという気がします。

事務局：本市には2つの主要会社の研究農場がありまして、仕掛けづくりとして多機能型野菜の新しい栽培を展開していただいています。

参加者：研究所があるから湖南地区は農業の聖地とされている。実際はみんながしているわけではなくて、研究所があるだけ。実情に追いつかなあかんのです。

参加者：今の農業従事者の人は、高付加価値のあるものを今やられている水田で育てる対応ができる人たちなのでしょうか。今までと全然違うことをしなければいけなくて、投資もしないといけない。

参加者：今の湖南省の農業従事者ならまだできると思う。5年後だったらできないです。

参加者：事業計画をしっかりとしていないとだめですよ。

参加者：60才で農業1年生であっても10年はできる産業なので、若いときから初めていればプロとしてできると思います。ただ、最初のスタートの農業収入は多い少ないはありますが、普通のサラリーから比べるときわめて少なく不安定です。どうしても定年退職して資金を蓄えて子どもも育て終わってライフプランが終わった後に、セカンドプランとしてするにはいいとは思いますが。

～パッケージ2～

43' 00"

説明者：～資料を用いてパッケージを説明～

48' 00"

参加者：働きながら水中ドローンというものをつくっている人がいて、あまりお金をかけずに一人でしている。他にも美容師をしながら野菜を作っている人もいます。あとは社会人をやりながら米を作っている人がいるのですが、儲けるための「副業」ではなく複数の事業をするから「複業」。本来していた仕事をプライベートでするのではなくて、切り分けてプライベートは自分がやりたいことをやるみたいな。プライベートでこういうのがやりたくて形にしたのです、というものを湖南省のプレゼン大会というのが毎月あって、そこで例えば私は今水中ドローンを作っているのです。でも、お金が欲しいというよりも湖南省の企業さんと結びつけてほしいとか、野菜作っているのですがその野菜を次の展開として、私個人が行っても相手にされない農家さんをつなげてほしいとか、そういう部分をひとつの報酬として、例えばこういう人たちも行政側にこういう報酬を求めたいんです、とかいうかたちでプレゼン大会があったらおもしろいなと思うんです。そうすれば、「複業を推進しているまち」とも言えると思うし、若いひとで5時で終わって早く帰りたい人もいると思うのですが、それは自分がやりたいことを仕事にしたいと思っている人が多いと思います。お金を儲けるために田舎に帰る人は少ないと思うのですが、複業ができるまちで、なおかつメインの仕事もできる。工業であったり農業であったり、やりながら推進してくれるようなまちというイメージがつけば、UターンというよりもIターンの人が、そういう特徴のまちって

ないと思うので、増えると思います。若い人もそうですけど、30代、40代の人たちとか、湖南省市に行って住みながらメインの仕事をして、プライベートタイムは自分のやりたいことをして、それが行政に認められれば会社としても、あの人のしていることは行政に認められているからプライベート時間をそれにあてさせてあげようと思ってもらえるというか。私こんなことやっているのです、でも誰にも認められていないです、では説得力もないと思うので。行政側が認めたりバックアップしてあげたりすると、他のまちではやっていないことだと思うので、おもしろいと思います。

参加者：合同説明会の周知はどのようにされたのか。せっかくいいことやっておられるのに、33人っていうのはあまりにも人数が少ないと思うので。例えば、甲賀市がされているのですが、何百人とあたりまえのように来ますからね。

事務局：昨年度は滋賀県内の大学に案内させていただいたり、フェイスブックやホームページとかSNSを活用したりしました。ただ、準備に時間がかかったところもございまして、開催時期が遅かったのかなという部分がありました。

参加者：湖南省市は地域と連携できていて、親御さんに案内すれば伝わると思います。本人さんをもちろんターゲットにするのはいいのですが、本人さんがこれをどれだけ一生懸命見るかということもあるので。

事務局：市の広報にももちろん掲載はさせていただいて、チラシも作って案内させていただきました。

参加者：出席された企業さんで一人も来なかった企業もあったみたいです。ネームブランドがある企業さんに集中する傾向がある気がしました。かたや、来なかった企業さんは一番高い基本給をつけられていたのに。

参加者：やっぱり今はSNSの時代で足を運ぶよりも、というところがあるのかもしれないですね。

参加者：高校生に向けて働きかけを行っていたのですか。

事務局：企業さんの意向もあったと思いますし、主に大学が対象となっております。

参加者：中学生の役員とかもいろいろさせていただいていて、同級生のお父さん、お母さんの中にもシングルマザーが多くなってきました。そうになると、大学に行かせたいけど経済的に大学に行かせられないという声も聞くので、せっかく地元にも高校もあるし、パッケージの中でそういうアプローチもあったのかなと思ったのですが。

参加者：実際、高校生は就職される方が少ないです。今日も企業合同説明会があったのですが、そこでは50社ぐらいが来ておられました。そこで企業がどんどん高校に対してアプローチをしていますから、正直アプローチ合戦になっているのです。だから、こういう説明会をしても実際高校生がきて、自分で見てっていうのは……。でも、そっちのほうが大切なのかもしれませんね。実際、生の声を聞いてという

のがね。

参加者：高校生に対して就職誘致をするのではなくて、高校生に対して働き方を教えるっていう取組があつてから、大学へ行って生きてくるというか。せつかくいいことされているので、高校生への働き方というか、もちろん中学生でもいいのですが、地元企業へのアプローチとかセッションをパッケージの中で見直されて進めていただいたらいいかと思います。

～パッケージ3～

57' 00"

説明者：～資料を用いてパッケージを説明～

62' 00"

参加者：移住冊子ですが、大阪、東京の移住定住センターに大阪、東京に何百もの自治体の冊子を受け入れているのですが、湖南省としてはどういったことで、どういったターゲット層をどのように呼びたいのか。湖南省は田舎でもない、都会でもないというところで他の冊子に入ってしまうと埋もれてしまうであろうまちだと思うんです。湖南省としてはどのようなターゲットにするのか、複業のまちとかも一つだと思うのですが、何かそのようなターゲットのようなものが決まっていなくて、言葉は悪いですけど右にならえで、皆さんがやっているからするという事になってしまうと思うのです。

それと、地域おこし協力隊事業では、どういう目的をもって、どういう役割を担って、どうなしてほしいのか。

事務局：定住のターゲットなのですが、やはり中途半端といったら何なのですが、田舎でもなく都会でもないという微妙な立ち位置だと認識しております。東京、大阪から呼ぶとなると仕事とセットで、地域おこし協力隊の人は勇気をもってきていただいているのですが、なかなか仕事がないというのが現状でして、製造業の方が多いいということで、製造業の働くところ、あと場合によっては住むところをセットで売り出すということで、一般的なPRとは差別化を図っていきたくて考えております。

地域おこし協力隊は、がんばっていただいているのですが、これからの取組としてはより起業に重点を置いた定住を図っていくために、支援のノウハウをもつ事業者の力を借りつつ、企業とも連携してある程度出口という見据えた形で募集をすることで、定住を図っていきたくて考えております。がんばっていただいている方については、全力でサポートして職を見つけていただいて定住してもらいたいと考えております。

参加者：起業ありきということで今後歩いていくと考えてよろしいですか。

事務局：そうです。

参加者：今まで起業なのか、地域おこしなのかすごく曖昧な状態でここ何年もきていまして、ここ最近起業には舵はきけているが、起業についての支援が一切ないというぐらいの状況がずっと続いています。具体的に起業支援するのであれば、起業に対してどのような支援をするのか、人によって違うので今具体的なものはないと思うのですが、面接で採用するにしても市が思うものに合っていない人は落とすぐらいのつもりにしないと、入ってきた人がかわいそうになってしまいます。そのあたりを明確にしたうえでの採用にしたほうがいいと思います。

参加者：移住ナビを検索したのですが、一件もヒットしなかったのですが。

事務局：正直なところ、今は移住パンフレットとプロモーションビデオを作ったという段階でございまして、今後は移住ナビを活用して検索したら湖南省もヒットするような形で載せていきたいと考えております。

参加者：空き家バンクというものがあるのですが、湖南省の空き家はどこにどれだけあるのか把握されているんですか。

事務局：どこにどれだけという数は把握しているのですが、実際その空き家を貸せるのかどうかの調査はまだなので、そこは今後進めていきたいと考えております。

参加者：万が一これから把握しようとしているのであれば各区を使って、市がこういうことをするからということで、近隣の人の方が詳しいので、まだならと思って。

参加者：市から区長さんに対してはもうしてもらっているのです。

参加者：そうなのですか。

参加者：土地と仕事と家というパッケージでの売り方ってできるのですか。

事務局：移住アンケートを見ていると、不安に思っていることの一番が仕事というところがあるので、製造業さんとかと連携しつつ、ちょっとどれだけの仕事があるのか調査が必要になってきますが。

参加者：どこの企業さんも人手不足なのです。人材派遣をたくさん抱えてしておられる会社もあるので、派遣法が大分変わってきていますので、今後派遣がやりにくい状況が出てくると思うのです。そんな中で、全部パッケージでやってくれて、企業さんの人材雇用の方にも助力していただくこともできますし、今言われてたような空き家の活用のほうもうまくいくのであれば、そんな理想的なことができるのであれば、ぜひやってもらえるとありがたいなと思います。

参加者：車も絶対必要でしょうし、すべてがうまくいく。

参加者：困っておられる企業さんいっぱいあるので、企業の求人情報の募集をまとめるとかの協力はさせてもらいますよ。

参加者：プロモーションビデオとかパンフレットとかリーフレットとか年度末にできましたよ、と。実際にご自身で出来栄はどう思われているのか。手ごたえは感じておられるのでしょうか。

事務局：出来栄えとしましては、実際のインタビューとか、湖南省のメリットをまとめているので、よいと思います。

参加者：わりとありきたりでは。

事務局：実際に興味がある人には、それなりにいいのではないのでしょうか。

参加者：先ほどのパンフレットの話ですけど、何百とある自治体があつて、興味をもってもらえる内容になっているのでしょうか。それこそ田舎の山に、家と田んぼと提供しますから来てくださいぐらいの内容だったら、なかなか難しいのかなど。地域おこし協力隊ですが、募集をかけて来ていただいて、結局何をしたらいいのかわからないまま時間がすぎて辞めていかれて、去年入った方はみんな辞められて。こんななんか何がしたいのか、やっておられる方も何がしたいのかわからない。これまで住んでいたところを思い切った決断で仕事を辞めて住むところをこちらに移して来られたのに、ちょっとひどいかなと思いますね。やるのであればプランをしっかりとてやっていたかかないと、応募してきてもらっているのに申し訳ないし、しっかり考えていただければなと思います。全力でこれから取り組んでいかれるといわれたので安心かなと思うのですけど。

事務局：パンフレットにつきましては、中身はわかりやすくできていると自負しているのですけど、たくさんある中でどうやって情報を見てもらうか、というのが課題だと思います。

参加者：でも、その田舎でもないし都会でもない。だったら、中途半端なのだったら、その中途半端は売りにできないんでしょうか。

参加者：いや、そう書いていますよ。中途半端などが売りとして最初に書いてありますよ。

参加者：もっとそれを強くアピールしていけばどうなのですか。

参加者：もっと中途半端ぶりをアピールするほうが。

参加者：田舎暮らしもできるけれども、京都、大阪に近い、名古屋も近いというような交通も便利とか。

事務局：ご意見を参考にさせていただきたいと思います。

～パッケージ4～

73' 00"

説明者：～資料を用いてパッケージを説明～

80' 00"

参加者：観光の方なのですが、まず、ゆららは全国でも有数のオートキャンプ場、湖南三山は国宝の建物で、全国で国宝が3つ以上ある市町村はめずらしい。でも、みなさんの表情を見てもそうなのですが、湖南市民で誰も知らないという事

実があります。あまりにももったいないと常々思っていて、彦根市民はだれもが彦根城は知っているのですが、湖南市民は湖南三山のすごさを知らない。そこに関しては市としてはどのようにお考えになっているのでしょうか。

事務局：情報発信が足りないと思っております。今月 24 日土曜日にはオートキャンプ場 4 周年ということでイベントをされますし、そういった発信の中で市民のみなさんにも知ってもらい、参加してもらうために観光協会としても発信をしております。

参加者：もっと市をあげてでも PR してもよいぐらいかなと思います。

参加者：観光客数は本当に合っているのですか。536,100 人。1 か月で 44,675 人も観光にきているという計算になるのですけどね。ここに総人口に近い人数がきているというのはすごいことではないですか。日本で観光客が増えている中で 1 年間 2,000 万人ですよ。

参加者：これって確か、湖南三山でも 1 か所、2 か所、3 か所行ったらカウントされますよね。

事務局：そうです。カウントの場所でございますが、三大まつりをカウントしております。それと、あげあげサミットのイベント系もカウントに入っております。ゆらら、元気市場、ここぴあ、湖南三山といったところの合計でございます。例えば、さくらまつりで 8000 人、夏祭りで 4 万人、石部宿で 1.8 万人となっています。

参加者：これは湖南市民も含めた数。

参加者：観光客をそれだけ呼び込みましたということではないのですよね。そういう計算の仕方なのですね。知りませんでした。

参加者：観光協会はなぜ山にあるゆららに行ったのですか。せっかくよそからたくさんの方が来られて東海道や電車を利用して来られる方もおられる中で、まず観光のことをどこで聞こうかと思ったら、まずは観光協会ですよ。今までわりと甲西に近いところにあったのに、なぜあんなに便のわるいところに引き込んでしまったのですか。さらに、例えば車を使って観光協会に聞きに行っても、入口がどこかもわからないですし、本当に観光を売る気があるのかというところはいかがでしょう。それこそ、甲西駅前のビルに入ったらよいのではないですか。甲西駅から降りてくる観光客にどんどんお話をさせていただいて、観光していただいたらいいと思うのですけど。

参加者：観光協会にしてもらっているのも、市としては存じませんというところですか。もっとすばらしいことができると思います。レンタサイクルは今どこがやっているかといったら、ね。どういうことやっていう話ですし、もっともっと発信が。それと、オートキャンプ場は県外から多く来られるということで、予約が取れないというくらい流行っているわけですよ。その県外から来られた方が、オートキャンプ場で 1 泊して 2 泊してそのまま帰られるという、これまたもったいない。

そういった人たちを湖南省にどれだけお金を落としてもらおうとか、湖南三山を巡られる方とか、大型バスで東海地区から来られて三山まわられて、お昼食べるころもなくそのまま帰られて、これは前から言われていることですが、そういったことに対して何か対策は考えておられるのかどうか。そして、大型バスを引き留めることが難しい湖南省の性質であれば、東海道を歩いておられる方とか電車で来られる方とかマイカーでこられた方の、それを目当てに来られた方のつながりをもてるような何かがあるのかなというところです。

事務局：言われたように、せっかく来ていただいた方に観光資源が点在しているもので、ネットワーク化をしていかなければいけないという課題がございます。滞在時間が短いということもございますので、そういった部分も増やしていこうということで、地方創生の推進交付金をいただきまして、観光資源の魅力向上を図っていきたくて考えております。いろいろな仕掛けとして、例えばハイキングであったり、湖南三山の広報のやり方であったり、アールブリュットという部分もございますし、猿飛佐助という取組もしていただいていますし、こういったものと連携してやっていけないかと。また、湖南省の観光を発信していけるようなアプリをどういう形でつくっていくのかということで検討委員会をたちあげまして、その中で検討をしていますし、さらに SNS の発信もしていこうとしていますので。

参加者：今後トレイルウォーキングとか三雲城址というのは観光強化に向けて取り組んでいくということ。

事務局：トレッキングコースはすでに観光協会の方で実施しています。トレイルウォーキングというのは、舗装していないところということで、十二坊を中心に磨崖仏など近いところなど巡っていただきました。

参加者：コースとしては確立しているのですか。

事務局：コースというわけではなくて、いろんな企画をしていただいで魅力を発信していくということでございます。

参加者：先ほど言われた通りオートキャンプで人を呼び込みましたよ、オートキャンプ場はかなり有名ですよ、というのがあればその事業をできるだけ拡大していくことは非常に有効な手段だと思うのですよ。キャンプというのは、実際そこでまわるどうのこうのがなくとも、そこに来てキャンプをして泊まってしまえば、あとは帰りに行くごはん屋くらいあればすべて済まされるのですよ。なんかの観光ではなくって。だから非常にキャンプっていうのはおもしろいかなと思う部分と、あと、そこで農業の部分とうまくキャンプという部分が合わさることができないかな。今、ものが充足されている社会なので、人の食というのはどうしても体験というところが注目されていますよね。キャンプに来てそのあとに田植え体験ができるだとか、稲刈りといっしょにできるとか、うまくコラボレーションできないか。今グランピングというのが流行っていて、何がキャンプと違うかというところ

何もかもすべて整っていて、わざわざテントをたてる必要もありませんし、ごは
んも用意する必要がないのです。この6月に伊吹でオープンしたのですが、今
から夏休み終わりまでの予約はほとんど埋まっているという状況で、今世間から
注目されるのには非常に有効な手段かなという気がします。そこに、都市部から
来た人たちが普段できないこと、稲刈りであるとかを融合させることで、湖南市
が独自に発信できるというか最先端で発信できてくるから、これはちょっとおも
しろいのではないかなと思います。キャンプがそこまで注目されているのであれ
ば、もう少し拡大していくのがいいのではないかなというのが一つと、ブラジル
の方が4.4%と言われていましたけど、これは全国的にみてどれくらいなのか。

事務局：4.4%というのは外国人の方の比率です。滋賀県では一番という地域ではあるとい
うデータはあるのですが。

参加者：私を知っている限りでは、たぶん群馬のある一部の地域と湖南市が2大拠点だっ
たぐらい有名だったと思うのですよ。

参加者：愛知県とか静岡県浜松とか豊橋とかも多いですね。

参加者：多いですね。せっかく外国人を引き込んで湖南市の産業の発展にもすごく貢献
されたと思うのですよね。なのに、一回ちょっと逃がしてしまいましたよ。なぜ
かという、それは外国人にとって住みやすい環境ではなかったということだ
と思うのですね。私は外国人が住みやすい環境の整備のほうが、いろいろあるパン
フレットなどで住みやすいまち湖南市として魅力を伝えるよりも、少しの整備で
外国人をたくさん呼び込むことは可能だと思います。より外国人が入ってきやす
い環境の整備をすることができれば、湖南市の人口増加にはすごくつながると思
います。ある意味、企業の人手不足の問題も解決できるのではないかと思います。
ですので、もう一度見直していただいた方がいいのかなと思います。

参加者：一人で中国と台湾に去年から今年にかけて行って、観光というよりはその国の人
たちと話そうと思って100人ぐらいと話したのですが、滋賀県のことを100人
全員知らなくて、私のように滋賀県に住んでいたら滋賀県のこと1人くらいは知
っているだろうと思ってしまいますけど、外国では知られていないものなです
ね。私は一人で行って、やっぱりお店とかで少しでも日本語をしゃべってくれ
ると、なんかいいまちやん、って印象がつくのですね。そういう部分で、あえて台
湾人とか国しぼってやってみてもいいと思うのですよね。外国人という一括りに
して英語書いておくだけでオッケーというと、中国人も台湾人も英語を全然しゃ
べれないので英語書いてもしゃべられても困るのですよね。日本人と一緒に。だ
ったら台湾の人だけにしぼって観光パンフレット作って、オートキャンプ場、農
業体験なんかの紹介も。みんなしゃべれる必要はないけれど、あいさつぐらいは
言えるようになっておくと、その国の人たちももっと行きやすくなると思います。
滋賀は知らないけれど湖南市は知っているとか。台湾はフェイスブックの利用率

がとても高いので、そこだけアピールするだけで今まで来てくれなかった外国人が来てくれるのではないかなと思います。お金もそんなにかからないと思いますし。

参加者：外国人に関わる意見はいっぱいあると思いますよ。

～パッケージ5～

97' 00"

説明者：～資料を用いてパッケージを説明～

103' 00"

参加者：子育て支援のところで、上の子が今年から小学校に行くようになったのです。それで、学童保育に預けたのですが、ちょっと人数が多すぎて2か所になっていました。もともとの学校施設の敷地から歩いていけるところが低学年の子が対象で、高学年は石部保健センターで学童保育をされている状況です。女性の就労支援とかパッケージの中で言われていたのですが、ちょっと受け入れ体制が整っていないのかなと思うのと、このまま進んで行って次に下の子が小学校に行くと、上の子は保健センターにこのままでは行くことになって、2か所別々に預かってもらうことになる、それってどうなのかなって。女性の起業とか就労を説明されていたのですが、学校行事も保育園の行事も平日がすごく多くて、女性も働きましようと言われてるわりに、家庭の中で誰か働いていない人がいるということが前提で今の行事が組まれていて、月に一度は休まないといけないことにギャップを感じます。

事務局：学童保育のことは今年改善する予定をしているのですが、募集をかけるタイミングが非常に遅い。12月頃になってから、すいません来年80人になりそうだとお聞きすることがあって、役所は1年予算で年に4回ほど補正予算があり、これができるというわけではないのですが、例えば10月にわかっていたら、12月補正という方法をとって、1月から3月までで余裕をもってできて、そういうサイクルの中で調整することができるのですが、12月の段階でできませんということを、初めて指定管理者から聞きました。それから慌てて、実際80人も受け入れることはできないので他に使えるところがないか探して、保健センターでなんとかいけそうだとわかって、急遽2つめのところとして受け入れさせていただいたところでございます。基本的にはひとつの学童保育所あたり40人という数字が適正だと言われている数でして、現状施設ですと60人を超えるとおおむね一人当たりの面積が1.65㎡と決まっていますので、一人の先生に見てもらった限界を超えてしまいますので、それが70人という数字になってきますと2つに分けざるを得ない。どのように分けられるかというのは、住んでいる地域や兄弟

とかを含めて考えてほしいということはお伝えしているわけですが、1、2年生とそれ以上で分けられたということをおうかがいして、まさにおっしゃっている兄弟さんが分かれて2か所に行っていたかなければいけないということがわかりました。それについては組み方を少なくとも兄弟さんは一緒にするとか、保護者の方にしんどい目にあっていただかなくてもいいような良い方法をとっていただこうと思っております。また、保育園の事業でございますが、事業についてはこういうことをするからということで、こういうことをしていいですかという回議書をまわしてもらって確認させていただいているのですが、全保護者の方が対象になっているような行事が多くあるという認識はありませんでした。働かなければいけない、家で見られない、仕事をしなければいけないからこそ保育園に預けられているということが事実ですので、それを阻害するようなかたちで事業が行われているとすれば、問題があると思いますので本来的な保育の意味を見つめ直して、そういうことにならないようにもう一度全園に確認して是正できることは是正したいと思います。申し訳ありませんでした。

参加者：私の言い方が悪かったのですが、保育園はそんなにないのですが小学校とかを含めると多いということです。授業参観が毎月あるのは、私の子供の時からだったのですが、今月だと音楽会があつてそれも平日でして、でもなんか誰々ちゃんのお父さん、お母さん何で来てないの、とか言われて。そういう行事くらいは、平日にしないといけないのかなとか、学童保育とかも完全に1、2年生とそれ以外に分けるのではなくて、1、2年生に兄弟がいる子は5年生のお兄ちゃんと一緒にいたいのに、他の友達が別の方にいるので行ったらずっとゲームしてずっと1人なのですよ。これはこれでかわいそうだなと思って。これから働いていく女の人が増えていくということが前提なのだったら、学童保育自体を大きくつくり変えてもらったりとかしたほうがいいのではないかなと思います。

事務局：学校の行事につきましては、そういった内容を確認しましてご意見を伝えたいと思います。

参加者：行かなくてもいい行事であっても親心としては行きたいのですよ。どうしても子供が熱を出して帰らなあかんってなっても、夫は田舎であればあるほど帰れないですよ。旧道沿いとかの小学校の近くに空き家があったら、その空き家におじいちゃん、おばあちゃんが来て一時の保護係をしてもらったり、これは行政側から手を回してもらわないといけないかもしれないのですが、大企業とかだったら和室があると思うのですが、働いている人も同じ場所で派遣保育でみてもらえる仕組みだったら、新しい大きな建物を大きいお金をかけて建てて、いずれ少なくなったら空き屋になってというよりは、人の部分をうまく回していくことができれば、考えられるいろんなことが解決するのではないかと思うのですよね。お父さん、お母さんの会社で派遣保育ということで預かってもらえることで、お父

さんもお母さんも外に出ていくことができる。人と場所とってというアイデアを組み合わせるだけで子育てが大分しやすくなるのではないかなと思います。

事務局：法の規制があるので。

参加者：そうだと思います。理想論だと思うのですが、そういうものがあるよってというアイデアがあって、それがちょっとでも実現するだけでもと思うのですが。

事務局：昔の学童保育って自然発生的に出てきたと思うのですね。それを市町村がちゃんと責任を持って見ていかなければならないという規定、俗に言う子育て三法ができたのですけれど、この法によって守られているところはあるのですが、自然発生的に助け合う互助の精神でしていたところがちゃんと基準を守らなければならなくなった。無認可というかたちで市が直接タッチしないかたちで、法の規制の対象ではないよというかたちで、互助会的なやりかたであればその責任においてということなので、ご提案いただいたような空き家で需要と供給の関係がうまくいって、推奨するというわけではありませんが、自然発生的なものであれば可能だと思って聞いていました。福祉施設は非常に法をクリアするためのハードルが高いのですよ。それだけのことが求められているということでございますので。

参加者：企業が自発的におくことに関しては、何の問題もないのですか。

事務局：公により認可されるか、無認可かで違うのです。認可するという形になるとハードルが高くなります。企業さんの名前は言えませんが、企業さんの自己判断の中で従業員の方への福利厚生ということでその範囲の中で無認可でやっていただいている事業所内の保育所というものもあるのです。それも認可か無認可で全然ハードルが違うので、あえて認可という形をとられないところも多いです。

参加者：法的緩和があれば、企業もやりやすくなるということですね。

事務局：会社が参入するということは規制緩和の中で進んできているので、先ほどお話しした範囲の中で、そういうこともできやすいという可能性は高いです。

参加者：ジェンダーギャップレポートでは、去年では日本は過去最低になっているではないですか。例えば、女性を管理職に置かないだとか、女性の働きにくい空気感を日本の企業は作りだして、長い間女性が休むってことになるのと企業もいい顔をしないですよ。休んでもいいですよと表面的には言っているものの、実際に帰ってきたときに仕事をする場がないだとか。そうなることで妊娠を機会に辞めるケースは少なくないのです。でも、それを解消すれば、日本は多くの雇用を生むってことも言われていますし、女性の雇用がうまくいけばGDPも大幅に増えるって言われていますので、そういうことが1企業でできればすごくおもしろいですよね。

～パッケージ 6～

118' 00"

説明者：～資料を用いてパッケージを説明～

122' 00"

参加者：イモ発電というのは最終的にしっかり発電するということまでいくのでしょうか。今の時点でもある程度のプランはできているのでしょうか。

事務局：多様な地域エネルギーのひとつとして、小型発電機を使って発電できるというところを検討しています。

参加者：今もうすでに導入済みですか。

事務局：国の方で地域再生計画が認定されまして、平成 31 年度には小型発電機を導入するということになっています。それほど大型のものではなくて、エネファームみたいなイメージで小型のもので取り組んでいくということを想定しています。

参加者：将来的にもしっかり絵がかかっている事業なのですか。

事務局：そうですね。太陽光みたいにすごく大規模にというわけにはいかないですけど、小型発電機で一部の電力をまかなったり、あとは農福連携ということで、まず、イモ栽培から高齢者と障がい者に取り組んでもらうことで地域の農業、高付加価値の農業につなげていきたいというようなところも考えております。

参加者：イモの生産はもっと増えていくということですが、今はどうされているのですか。例えば、地域の特産品にするとかいう話が一部では出ていると思うのですが。

事務局：今は基本的に食べて残ったものは発電の実験というかたちで活用したり、今までも少し取り組んできましたが 6 次産業化にも取り組んでいきたいと考えております。

参加者：JK 課はどうなのでしょう。丸 1 年ですかね。

事務局：去年の 8 月に立ち上げまして、積極的に地域のイベントとか SNS を通じた発信ということで、自由に活動されていまして、それを通じて市のことを知ってもらったり、まちづくりに取り組んでもらうという中で周りにも波及するといった効果を期待しております。

参加者：それなりの効果もあげられていると。

事務局：そうですね。あげられていると認識しております。

参加者：こなんウルトラパワーはちゃんとバックアップはあるのですよね。

事務局：電力の供給については、電力会社と連携しています。

参加者；イモはいい夢を見られる。

～パッケージ 7～

126' 00"

説明者：～資料を用いてパッケージを説明～

136' 00"

参加者：甲西駅のエレベーターをつけられましたが、あの位置につけてどうやって行き違いをされるのかなと思ひまして。困ってしまつて、あれをつけてしまつた時点で草津線の行き違いの着手には遠くなつてしまつたのだらうなと思ひまして。

事務局：甲西駅につきましては、真ん中にホームがある形になつて、両方で運行するということになりまして、ほ場整備のところ用地を確保していくということになっています。

参加者：観光協会が駅前になつていないということで、観光に第3次産業を誘致することが条件だとあげてあるということは、なおさら観光協会さんがここにいらつしやつて、湖南省市周辺を盛り上げたほうがよいと思つたのと、パンフレットがこのパッケージにも出てくるのですけど、PR、冊子、パンフレットとかいっぱい出てくるのですけど、無駄つて言つたら怒られるのですけど、もう少しまいことスマートにできないかなと。結構お金がつぎこまれてるので効果的な冊子づくりというか、PRを含めてしていただければいいのかなと思ひます。

事務局：効果的な冊子づくりと複合的な部分も含めて検討していきたい。

参加者：コミュニティバスですが、何度か乗つて石部をまわつたのですけど、電車の時間と連動してなくて使い勝手が悪いと思ひました。外から来る人はHPの時刻表を見てくるので、今までの方法では湖南省市は損しているという気がします。三雲側も同じで、バスは委託をしていると思ひますけど工夫の余地があると思ひます。他の点ですが、施策をしているがターゲットがはつきりしないと感ひました。ここぴあはだれをターゲットにした設備なのかなと。例えば、埼玉の方で人口は2倍か3倍か多いのですけど、巨大な工業団地があつて湖南省市と同じような場所があり、東京から1時間ちょっとぐらひのところですよ。そこには、清掃工場があり、横に温水プールとか普通のプールとかがあつて、清掃工場の水を使つて、お花とか大々的にやつてしまつて、それに農産品の販売をくっつけているのですよ。それも一つの企業だけの出品ではなくて複数から出させて、それぞれキャンペーンもさせて集客させているのですよ。人を集める工夫。そういうところで知恵を出せるかで勝負が決まってくるのかなと。それをうまくしていくのが市の役割だと思ひました。

湖南省市単体で完結させようとして感ひが強く、できる部分は自治体間で連携してもよいのではないかなと。観光では、観光冊子ガイドで長浜、比叡山と順番に載つていて、正直湖南省市は載つてたか覚えてないです。実際にあることでも報道されないとなつて等しいと思ひます。オートキャンプなんかはすごくうまくいつていて、とつかりとしては使えると思ひるので、どこまで広げられるかというのは、今後湖南省市がどうなつていくかを決めていく一つの過程なのかなと思ひ

ます。

参加者：湖南省と合併してから中心は甲西なのかなと市民のイメージとしてあります。石部駅にはエレベーターがないことで、おじいちゃん、おばあちゃんが階段を上って降りて大変なので、石部の方もよろしくお願いします。

終了

155' 00"